

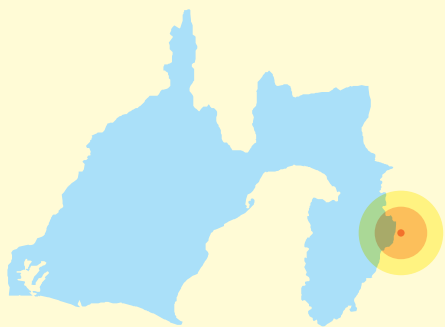
● 富戸藻場再生協議会

代表 日吉 直人

〒413-0231 伊東市富戸 987 tel.0558-62-2804

主な構成員（人数）：漁業者14名、漁業者以外※18名 計32名

関係市町：伊東市 ※いとう漁協富戸支所・富戸ダイビングサービス・潜水士（ダイビングインストラクター）・北里大学



●活動地域

伊豆東海岸の中央部に位置している富戸地域には、かつて大型海藻からなる藻場が存在していました。アワビやイセエビの資源が豊富にあり、それらの新鮮な海産物は、地域の食堂や民宿で提供されていました。またこの地域はマリンアクティビティが盛んであり、伊豆半島でも指折りのダイビングスポットとなっています。

●協定面積 2ha

対象種の紹介

富戸地区には、カジメ・アントクメ・ワカメ等で構成される藻場が存在していました。アワビやサザエの餌、伊勢海老の幼生の隠れ家などとして大きな役割を果たし、ダイビングポイントにおいても藻場を隠れ家としている生物達の観察を楽しんでいました。しかし、近年の高水温と潮流の変化に加え、ウニ類（ガンガゼ・ムラサキウニ・バフンウニ等）と、魚（ブダイ等）の食害も多く、大型海藻の藻場は衰退しました。



■5つのポイントに分けてカジメ、アントクメの移植、モニタリングを行なう

対象種の分布・生育状況

5か所のポイントに分け、ネットで保護しカジメの若芽を移植、モニタリングを行っています。ネット内で保護している秋口に移植したカジメは順調に生育しており、1か月で約5センチほどの成長が見られます。夏前に設置したアントクメの母藻については孢子が撒かれ、芽吹くのを期待します。移植活動以外の場所では海藻が増えているなどの変化はありません。

保全活動の必要性

藻場の衰退に伴い、アワビやイセエビの漁獲量が減少しました。地域の漁業への影響だけでなく、民宿や飲食店においても地元の新鮮な魚介類の利用が難しくなりました。また、富戸地区はダイビングスポットでもあることから、磯焼けにより生物が減少すること、観光分野・地域振興にも波及する課題です。

これまでの活動成果

カジメ・アントクメの種苗を育成し、移植を行っています。種苗を囲むようにネットを設置することで、食害から防除しています。日常的にモニタリングを行っており、生育環境を整えています。

その結果カジメについては、秋口に移植したものは順調に生育しており、アントクメは夏前に設置した母藻の孢子が撒かれ、芽が出る事を期待する状況です。

啓発活動として、市内の小学生を対象に海中の観察会と協議会の取組を説明しました。

また、これらの活動を行うことで、ダイバーの環境に対する意識もますます向上しています。

今後の活動指針

●保全活動の目標

漁業者・漁協・ダイビング業者と協力し、藻場の復活を目指します。このことにより、漁業・観光業・地域振興に好影響を与え、今後海業等の推進にも寄与できると考えています。

